

研究分野 自己免疫

キーワード 膠原病, SHP-2, チロシンホスファターゼ

膠原病における SHP-2 の役割および 治療標的としての有用性の解明



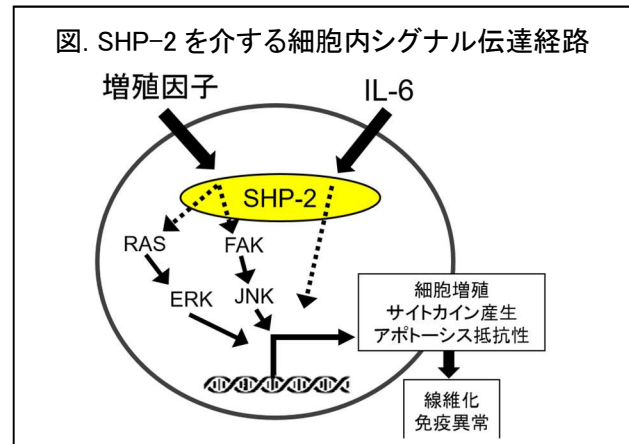
医学部 医学科 内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学

<http://www.med.oita-u.ac.jp/naika1/>

助教 前島 圭佑 (Keisuke Maeshima)

研究概要

チロシンホスファターゼである SHP-2 は以前よりがん領域で注目されているが、近年関節リウマチでも有望な治療標的として注目されつつある (Maeshima K, et al. JCI insight.19;1,2016)。関節リウマチを含めた膠原病領域に限らず、チロシンホスファターゼを標的とした治療は未だ確立されていないが、近年新規 SHP-2 阻害薬が複数開発されており、今後がん領域を中心に、臨床応用への動きが加速することが予想される。そんな中我々は、SHP-2 などのチロシンホスファターゼの膠原病病態における役割を解明し、新規治療標的を発見することを目指している。



アピールポイント (技術・特許・ノウハウ等)

関節リウマチなどの膠原病疾患の新規治療候補薬の評価を、患者検体などを用いて行う。末梢血由来単核球を用いた評価を頻繁に行う。

応用可能な分野

膠原病全般